

二十三月廿月二十



定価一紙五銭 一月一元五角 三月四元 半年八元 一年十五元
 電話 五二二二 行金五折 郵便 五折
 日曜日の翌日休刊
 発行所 常磐新聞社 毎日新聞社
 印刷所 常磐新聞社 毎日新聞社

陣中想出話

(世)

平町出身
 歩兵第九師隊 水野重光
 第三中隊

▼お星様を狙撃した話
 暗くて寒い夜で、木も草もほの白く下りた霜の下に底深い眠りに落ちてゐました。歩哨が心臓の音をさせながら静かにそして緊張して立つてゐました。遠くの山蔭で犬が吠き出し、東の山にボツリと赤い灯が、その灯はその頃でした。そして其の灯が上下に動くのでした。さあ、歩哨の神経が目と鼻に集結され、心臓の鼓動が急速回転を初め、襲撃の合図、脳味噌の向ふから寒氣と一緒にこんな直感が背筋を走り、思ひが鐵條網がきしみました。敵襲と歩哨は叫んだつもりでしたが、それはゴロツと聲帯が咽喉の奥で振るいたばかりでした。
 赤い槍青龍刀が闇に光つて物凄く顔をした大刀會匪が鐵條網を越してむしやむしから落着きを奪つて恐怖が引金を引かせました。銃聲が山の静寂な夜氣を破つて大きく反響します。然かし山の灯は寂としてゐます。續げざまに三四發更に手ごたへがありません。兵舎の中で故郷の楽しい夢を結ん

でゐた吾々は不意の銃聲に夢破られて素破！敵襲を飛び出しました。だが銃聲の消えた山の夜氣は相變らず死の様な静寂さである歩哨が指さす彼方の山の端より今悠々と赤いお星様が昇つて行きます。歩哨の顔面が恐怖からしう恥に變つて



卵の登味を泡立てる時器に

少しでも油氣がありますとよく泡立ちません又泡立器ははじめから終りまで同じ方向に廻してたてます途中反対にいたしますと折角泡立つのが戻ります

おます、言ひ合はしたやうに爆笑を續けてゐる皆も見ても然かし眞剣に星様射撃のナンセンスを演じた歩哨はどうしても笑へません、星様を狙撃した自分は偶話

二明日の献立

【朝】みそ汁 小豆じやがいも 葉付かぶ
 【晝】フライいしもち ヒラメ
 【晚】わんかまぼこ うぐす菜 しひたけ ゆば (すまし仕立)

▼吉敦線の山中で
 山鳥取つた君
 悲鳴!!!
 どれ〜一同總門出中でも小隊長大喜び晩の酒の肴にするかさて其の處分は山鳥飯になりけり



常磐歌壇

春日陽子

父母居ます家を想へばわが心あやしきまでに物思ひする

都にてわれに勝たんと云ひし人のなすこともなくかへりきとさく

朝まだきのき端に近く子雀の鳴く聲きけば冬を思ふゆ

看護婦急派

の求めに應

じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

修理部 ●記念二割引特賣

仲好堂選セントラル萬年筆
 ハーモニイ式 一・五〇銭ヨリ
 標準型 一・〇〇銭ヨリ
 御買求めに絶好のチャンス
 豊富な品より御氣に召す御選定を!
 播穂小路 仲好堂
 電話(呼)五三八番
 期間 12.15
 1.15

イヤ! 君!
 いゝ冬服を求めたね
 断然三二年型だよ
 いやコレカネ!
 例の...「ソレ」
 正札堂さ

六三四電通場車停目丁四町平

だしの素景品付賣出し

美味で經濟な液体だしの素は臺所を預る奥様や娘様方に是非御使用を御願いたしますと満足します
 京一だしの素 四合瓶一本 四十五銭
 二合瓶二本 五十銭
 尙紀念として京一醬油一升御買上毎に景品券を差上げます
 特等腕時計 一等醬油六ヶ月間進呈又萬年筆 二等醬油三ヶ月間進呈又ハシヤードペンシル 三等ダシノ素大瓶一本 四等ダシノ素小瓶一本 五等石鹼割箸マツチノ内一ヶ全部空籤ナシ
 期間 十二月十五日ヨリ二月十五日マデ
 發表 二月二十日
 新川町新藤屋隣 京一醬油直賣所

外科

門專 X
 科線光

上田外科病院

平町南町
 電話一二九番

開業廣告

外科 醫學博士 渡部 義夫
 小兒科 女 醫 渡部 さい子
 入院應需 渡部 外科
 平町田町大通り(電話二七七番)

吸入用酸素純度 99%

度量衡
 モノサシ
 マス
 ハカリ
 体温器
 寒暖計
 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

開内藥局

電話四〇番

産名城磐
 魚問屋
 最優最良 最大日本 生命平代理店
 志賀 盛栄 番三一二電 目丁四平

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

けふ開所した

蠶業取締支所

永い間種々な關係で實現されなかつた本縣蠶業取締支所も新築工成り十月五日縣への引渡を了り、十一月一日開所、今十二月二十三日を以つて開所式を舉行する運びに至つた事は地方蠶業のため誠に慶賀に堪へぬ處である。此平支所の新設と同時に濱三郡の支所管轄區域が變更され一郡一支所の理想が實現されたのである。即ち原支所は相馬郡を、久之濱支所は双葉郡を、平支所は石城一郡を管轄する事になり、當業者の利便のみならず指導獎勵から見ても好都合となつた譯である。此機会に今日開所式を擧ぐる迄の経過に就て地元關係方面から親しく聞き得た経緯を物語つて見よう。

石城郡に於ても養蠶業に對しては從來大なる注視の的となつて平町には以前蠶業講習所を設立して養蠶業中堅青年の育成に努力した何でも大正十二年頃であつたが此郡立蠶業講習所に蠶種の検査及其他の蠶病豫防を講ずる爲め縣の蠶病豫防事務所の出張所(今の支所と同格のもの)を縣内各地に設置したると同時に併署せん意嚮にて縣は講習所の管理者たる時の佐瀬郡長に照會した處同郡長は講習所主任の佐久間農學士(蠶業

主任酒井喜三郎、愛宕賢の干係諸氏と談合の結果、病毒検査をする蠶病豫防事務所を養蠶から蠶種の製造をする講習所内に設置しては病毒傳播の恐れあるからとの理由の下に之を拒否したので、縣は双葉郡久之濱町に設置する事になつたので石城郡の蠶業の指導獎勵は久之濱町にある蠶病豫防事務所(現在では蠶業取締支所)の監督指導を受け來つたのである。

爾來年を追ふて蠶種検査事務より指導獎勵事務までに擴大されて來たので程遠からぬといふ久久之濱町では不便甚しきものありとの輿論が起り平町に移轉説が持ち上り、遂に支所の獨立設置が叫ばれるに至つた。遂に更に郡役所の廢止に伴

八方に飛んで

匡救工事視察

在郡中の赤木知事

在郡中の赤木知事は昨夜湯本町松泊館に一泊今朝午前九時自動車にて目下着工中の磐崎村地内藤原川改修工事場を視察して平町に引返し蠶業取締支所祝賀式に參列後今回縣支辨河川となつた新川の匡救事業を視察し平驛發二時十五分列車にて

歸縣した

寄附半減對應の意見を持寄つて

近く鮫川江總會に附議

既報鮫川疏水組合の總會は既記の如く小名濱町の寄附半減問題等に依つて相當注目されて居るが同總會は來る廿六日午前十時より平町團体事務所樓上に開かれ左記議案を附議する由にて小名濱町寄附半減の件は各組合員が對應意見を持寄つて協議すると

- △臨時委員設置規程制定の件
- △鮫川堰排水幹線改良工事債負の件
- △組合債借人及償還方法に關する件
- △鮫川堰農業水利改良費負擔金繼續年支法變更の件
- △昭和七年度鮫川堰普通水利組合歳入歳出追加更正豫算の件

本物の郵便局同様な年賀状受付大繁昌

平第二校の模範郵便局

平第二小學校模範郵便局にては明日から各生徒間の年賀郵便取扱ひを始めるが元日には今年一組の生徒十五名配達になつて居たのを約七十名に増加して配達させ本物の郵便局同様な忙しさを發揮すると

農村農會總會

石城郡農村農會では來る廿六日同村小學校に於いて總會を開き役員改選並に本年度事業の報告等を行ふと

冬休近し

けふ大掃除 歳末の各校

平町各中等學校にては第二學期も終りを告げ來る二十五日より冬期休暇に入る事

△書生 二十一才 中卒
給料面談(内郷村某)
△鍛冶工 三十才 尋卒
給料面談(宮城縣某)
△店員 二十才 佐賢卒
給料面談(赤井村某)
△炊事婦 六十五才 高卒
給料面談(平町某)
△菓子工見習 十八才 高卒
給料面談(好間村某)

三河産業博覽會 金牌受賞
昭和産業博覽會
お惣菜用 さつま揚 吉原場
かまぼこ製造
お惣菜用 さつま揚 吉原場
電話一四一番

時豐富 御感謝 御用品 御用品 御用品
無越 御用品 御用品 御用品
好品 御用品 御用品 御用品
絶在 御用品 御用品 御用品
漆器も需要季に入り俄然暴騰致しました
平町三丁目36番郵便局裏通
共榮漆器店
電話一四一番

又々ウチワ豫約期が來ました
明年のウチワ。扇子は諸掛のかゝる外來品より、注文に追加に萬事便利にて、製品及價格に自信のある山久へ！是非一度御用命を
山久團扇店
前局町屋紺平
番九〇四(呼)話電
庫在富豊器子硝壺子菓
一タスボ。一ダンレカ

蠶業取締支所

新設の喜び

赤木知事臨席して

晴々しく式辭朗讀

けふの祝賀式

國屈指の

蠶業地

平蠶業取締支所の開設祝賀式は本日午前十時より平陽女學校講堂に於いて赤木本縣知事、重田蠶業課長以下關係者及び招待者四百餘名參列、重田蠶業課長の開會の辭に始まり知事の式辭、來賓總代青沼平町長、中島裁判長其他の祝辭ありて目黒支所長答辭を述べ工事を完成せる縁川請負者の表彰を行ひ祝宴に移り盛會を呈したが當日赤木知事の式辭は左の如くである

本日茲に蠶業取締支所所の式典を擧ぐるに當り貴賓各位の御來臨を辱ふいたしました事は本官の最欣幸とする所でありませぬ惟ふに生絲は本邦輸出品の大宗でありまして是があるが爲に國際貿易の

精算も 立ち行くものであると存します恰も生絲は吾國の生命と申しまして決して過言でないと思ひますと共に蠶業が如何に重大な責を負つて居るかを窺ひ見る事が出来るのであります古來本縣の蠶業は東北六縣の首席であり亦全

日を以て當支所を開設するに致つたのであります當業者各位には宜しく縣の意のある所を体し當支所と充分に連絡協調を圖られ以て斯業の改良進展に對し違算なきを期せられん事を切に望む次第であります次に職を當支所に奉ずる者は常に克く所定の方針に従ひ獻身的な**努力**を拂ひ以て其の使命の全きを期し縣民の要望に勿論縣が當支所を設置するに到つた本來の目的に副はん事を深く望む次第であります終りに臨み當支所設置に關しまして多大の御援助を與へられました福島縣町村長會石城支會石城郡養蠶業組合、關係町村及有志の各位に對し此の席より深厚なる謝意を表する次第であります



今朝の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「工夫一つで出来る新しい年賀状」谷間勇
後七、三〇 講演「國力の根源」藤島文理科大學教授文學博士清原真雄
後八、〇〇 長唄名曲演奏「筑摩川」芳村伊十郎外

今日の部

後八、二〇 放送舞臺劇「菅原傳授手習鑑」風橋三郎外
後八、五〇 連續談話「羽子板娘(終席)」大島伯鶴
後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組豫告

明日の部

後九、一〇 料理献立
前一〇、三〇 家庭講座

「どなたにも活けられるお正月花の活け方」押川如水
後〇、〇五 俳諧 門田猪太郎外
後二、二〇 胡弓と尺八 胡弓西宮徳末 尺八島山浩藏
後二、〇〇 婦人講座「日本婦人と其社會的活動」(現代婦人の行くべき道)文學博士中村孝也
後五、〇〇 受驗講座「英文和譯」佐川春水
後六、〇〇 講演「萬國婦人と子供博覽會開催の主旨」

後七、三〇 「クリスマスの夕」
(ごあいさつ)小崎朝子(讚美歌合唱)富士見町教會日曜學校生徒(お話)「一番初めのクリスマス」西坂保治(クリスマス・カロール)東京澁谷區青山學院神學部禮拝堂より中繼
後八、三〇 ラヂオドラマ「若しイエス様がいまお生れになつたといふれば」東京放送児童話劇協會
後九、〇〇 管絃樂會「新交響樂團練習より中繼」日本放送交響樂團 指揮山田耕作
後九、三一 滿洲より

日を以て當支所を開設するに致つたのであります當業者各位には宜しく縣の意のある所を体し當支所と充分に連絡協調を圖られ以て斯業の改良進展に對し違算なきを期せられん事を切に望む次第であります次に職を當支所に奉ずる者は常に克く所定の方針に従ひ獻身的な**努力**を拂ひ以て其の使命の全きを期し縣民の要望に勿論縣が當支所を設置するに到つた本來の目的に副はん事を深く望む次第であります終りに臨み當支所設置に關しまして多大の御援助を與へられました福島縣町村長會石城支會石城郡養蠶業組合、關係町村及有志の各位に對し此の席より深厚なる謝意を表する次第であります

小學兒童の

腹をへらせた賊

今朝非常線に掛る

既報平警察署では昨廿二日より歳末の非常警戒を行つて居るが今晩三時半頃密行中の福田部長が平驛待合室で舉動不審の青年を捕へ本署に引致して取調ると同人は宮城縣名取郡玉浦村大字寺岡字濱里八六生れ武田精太郎(三)と云ふ窃盜前科二犯の強か者で本月一日福島刑務所を出てより平町に入り來り市内各小學校にて兒童の辨當を窃取しては飢をしのぎ去る十五日鎌田町武田三郎方の不在中に忍入り時價三十圓の金側懷中時計を窃取した外四丁目鈴木果實店自轉車其他小鼠泥十數件を働いて居た旨自白したので目下取調中である

學校犯罪豫防

平町各小學校にては目下犯罪豫防週間なので本日校長の講演があつた

一日の炭礦働まで

恐怖の極精神異狀

無賃乗車で逃走し

舌を噛むやら硝子戸破壊

岩手縣二戸郡一戸町三三生北館喜惣治(三)は先月中郷里で營んで居た小間物商を失敗し本月初旬石城郡に流れ入り去る十九日某周旋業者の手から某炭礦に入夫として就業したが監獄部屋同様の苛酷な勞働を強ひられて恐ろしさの餘り翌廿日午後七時頃驛より無賃乗車して逃走を圖り途中車掌に発見され仙臺驛へ降ろされたが同人は非常に追つ手を恐れて精神に異常を來し舌を噛むやらガラスを壊す始

湯本の

トラック

栃木で衝突

石城郡湯本町丸通運送店方運轉手志野知吉(三)は昨廿二日午前五時半頃トラックを運轉栃木縣下都賀郡靜和村宇古橋地内を進行中同村字泉小橋福次(三)に衝突して右肋骨を折り全治四週間の傷を負した旨本日平署に通知があつた

一寸法師の

亭主を嫌つて

朝鮮人と駈落

石城郡平窪村宇鯨岡居住竹細工業松崎留吉(四)は妻ヤイ(〇)との間に四人の子供があるが同人は身丈僅が三

平裁判たより

石城郡小名濱町宇古港十番地自動車運轉手菊田清(三)は去月十八日午後四時頃貨物自動車運轉し江名町より泉村方面に進行の途中同町永崎トンネル附近に於て三河ノメに衝突前頭部に約二週間の要する傷害を與へ業務上過失傷害罪として罰金二十圓

同郡江名町字中ノ作八番地漁業吉田卓藏(四)は去月二十三日午後二時頃同所吉田義勝(三)所有の石油發動機船明治丸に船長として乗込み禁止區域なる茨城縣磯濱町海上に於て底曳網を使用し雜魚約八貫匁を漁獲し機船底曳網漁業法違反として各罰金四十圓宛に本日各々平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

義経

【禁城上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

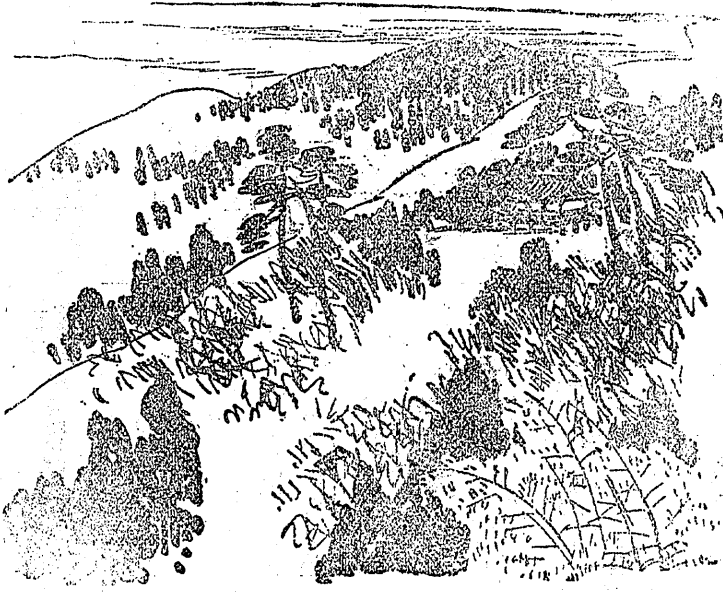
第二百三十二席 平手造酒

金比羅山に潜伏
勇善兵の何時もながら温情のある言葉に富五郎

富「御尤もでございます然し私の立場としては貴方にこの上にも苦勞をかけては濟みません、勢力は命惜しさに舅の善兵衛にまで繩を掛けたと云はれては死後の恥さういふ譯ですから此處を立退きますと云つて役人の許へ訴へ出て御處刑を受けては親分の怨みを晴らす事が出来ません、それ故此處は立退くにした處で固めの馳むを待ち飯岡へ押寄せて助五郎を首に致します、然し此の望みを果すことが出来なければこの腹を割いて死にますとつちにしても此の後貴方にお目にかゝる事は出来ません、婿となり舅となるも定まりし因縁と云ひながらとんだ者を婿に取つて永い間心配をかけるまして何とお詫の申様もございませぬ又先達でも申した通り私が亡くなりました後は何卒お力を村田屋吉五郎の許へ縁付けて下さい、吉五郎は長脇差の足を洗ひ今では小見川で堅氣となり鰻屋をして居ります、私達とは違ひ彼奴は利巧者其れ

に性質も實直で彼れと連れ合へば一生安樂又貴方も安心此の事は呉々もお願ひ申して置きます」
善「承知したるこでの勢力此處へお力を呼んで来るからどうぞ會つて遣つて下さ

はぬ方がよからう」
富「それではこれでお別れ申します」
善「まあ待て何處へ行くにも先立つは金だ十兩ばかり持つて行け死ぬにしても金がないれば恥だぞ」
と善兵衛が持つて来た富「それではそれを頂いて置きます」
善「モウ一つ饒別に遣る物があるこれを持つて行け」と獵銃を一挺出して
善「彈丸も澤山あるぞこれがあれば正宗の刀より役に立つぞ」
富「有難うございます左様



い」
富「イヤそれは廢しませう會へば互に未練が出て熱い涙を流すやうにもなりませう、不人情なやうでございませうが會はぬが互の身のため此の事も貴郎からおりきに話して下さい」
善「さうか成る程これは會

なればお貰ひ申して参ります」
十兩の金を懐中に獵銃を持ち白米五升に鯉節三本を榮助に持たせ清瀧村の善兵衛の許を夜に紛れて出てそれから夏目村に來て金比羅宮を祀つた山にはいつた、金比羅山があるため金比羅山

といふその社を住まゐりにして潜伏して折々榮助を麓の村へ出し役人の様子を探らせ又飯岡の者が役人と共に此處まで手を延ばしてゐるかを探らせる
榮「親分役人や目明しはあんなだけの智慧をしぼつてお前さんの行方を尋ねておまかせさういふ譯ですから茲當分この山を下ることは出来ませぬ」
富「さうかそいつは困つたな助五郎を首にした後は直に訴へ出て御處刑を受ける覺悟を有つてゐるが助の首も見す繩にかゝるのは残念だ、まづ當分この山にゐることにしてしやうその内にはこの邊に俺がゐねえものとかう役人や目明しも思ひ圍みをゆるめるであらう」
榮「さうですな何うも仕方があるえまア親分の社を住居にして落付いてゐることにしてしやう、しかし淋しいねこゝには人間が住んでゐねえから食物もなし鼠もありません」
富「その方が静かでないや、……」
榮「静かなんぞ云ふものはこんなものじゃねえ淋しい唄でも歌つてやれ少しは氣が晴れるだらう」
富「コレ、聲を出してはならねえこゝに人が居るといふ事が知れると面倒だまつてゐろ」
榮「これは驚いた無言の行をしてゐるやうなものだあ、淋しいなモウ一度麓に下つて見やうかな」
年がゆかぬから榮助はま

だ雅氣がぬけさせん勢力は警戒のゆるむを待つて山を下り忍んで飯岡に切り込むつもり、ところが食物がつきて來た白米は五升持つて來たが十日ばかりの内になくなつてしまつた、あとは鯉節これだけをたべていたがこれとても永く支へることは出来ぬ、これには大いに困りました。

平 町 二 丁 目

三井タクシ

電話 六八五番

食事

喫茶

平一

電話 四六番

家庭温泉御案内

日本一の靈湯草津の源泉に化學的操作を加へたる

草津湯の素 家庭風呂に外用に！

心地よく温まり絶對に湯冷めせず湯上り氣分價千金一家揃つて居ながらにして温泉氣分を味へ其上一切の難病を征服する靈湯なり。

冷性の方、しもやけ、火傷、外傷、婦人病、痔疾、神經痛、リウマチス、皮膚病、其他一般消毒用として特効あり。

定價 一〇〇瓦入 五分 五十錢
二五〇瓦入 十二分 一圓
六〇〇瓦入 凡 三十日分 二圓

其他浴場用旅館用大徳用あり、試用分無代進呈いたします。：煙突掃除薬も販賣致します。：石炭の御用命と共に是非御使用を御奨めいたします。

海峯線 石炭商 伊藤軍二商店
平町一丁目電話三四九番

特約販賣募集 各町村一ヶ所に限る御申越あれ 特に御相談に應ず。

販賣元草津温泉研究所營業部

平町田町七〇番地

應入院 山内醫院

醫學士 山内亨吉

電話六九一

耳鼻咽喉科専門

應入院 山内醫院

醫學士 山内亨吉

電話六九一